ILSI Japan 活動報告<105>

【部会·分科会活動報告】 2024年1,2月度

研究会・部会・	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
委員会・分科会					
食品安全研究会					
食品微生物研	食品産業会が抱える	部会員が集まり定	【全体】	各分科会の研究活動に加え、各	(公社)日本缶詰びん詰
究部会	食品微生物関連の共	期的に交流や情報	・ILSI Japan/NITE 合同シンポジウム	社が共通に抱える食品微生物関	レトルト食品協会(日缶
	通課題を、部会員が協	交換を行える場と	の開催に向けた各種準備作業を実	連の課題について、部会全体で	協)
	同で(企業の枠を超え	しての部会運営の	施。	のディスカッションおよび関連	(独) 製品評価技術基盤
	て)研究し解決を目指	再整備(アフター	【分科会活動】	団体等との連携を通じ、課題抽	機構 (NITE)
	す。	コロナ対応として	(1) 芽胞菌研究分科会	出と解決策の検討を行う。	
	食品関連企業の微生	の集まる場の整	・飲料の危害微生物に関する分科会メ		
	物担当者が業務上の	備)	ンバー間の情報交換会を 1/12 に実		
	悩みや課題を相談・共	新規研究 PJ の立案	施。次回は4月中に開催予定。		
	有し相互解決できる	および他機関との	(2) MALDI-TOF MS 研究分科会		
	場として機能する。	積極的な連携の実	・NITE との連携協定に基づき、		
	当部会の研究成果を	施	MALDI用解析ツールである Mass-Up		
	含む食品微生物に関		の勉強会を開催した(1/17)。ILSI か		
	する安全性等の情報		ら 8 社 16 名、NITE から 5 名参加が		
	について、広く周知活		あり、Mass-Up を用いた MALDI スペ		
	動を行う。		クトルの実践的な解析事例を交えて		
			議論、情報共有した。		
			(3) チルド勉強会		
			a. ボツリヌス菌接種試験活動		
			・日缶協で実施中の追加試験の進捗共		
			有、結果公表までのスケジュールにつ		
			いての協議のため、メンバーおよび日		
			缶協で Web 会議を開催 (2/29)。 結果		

			公表までの期間中、定期的に情報交換		
			会を開催する方針を決定。		
			b. 耐熱性試験法検証活動		
			・活動なし(検証試験の対外発表に向		
			け、結果を取り纏め中)。		
			(4) 国際整合性のある食品微生物リス		
			ク管理研究分科会		
			・以下の読み合わせおよび和訳を継続		
			実施中。		
			FAO/WHO Microbiological Risk		
			Assessment Series 24 "Statistical		
			Aspects of Microbiological Criteria		
			Related to Foods"		
食品リスク研	食品の安全性評価の	① 食品リスク研	2月21日に部会をハイブリッド開催	① 勉強会開催に向けて、企画・	
究部会	考え方を学び、その普	究に関する勉強	した。	準備を進める。	
	及に努める。	会を 3 回以上開	① 今年の勉強会も昨年同様 3 回を	② 今後の売れ行きを注視して	
		催し、情報発信	目途に有志によるWGを形成し	再検討する。	
		する。	て企画運営する。		
		②「ナチュラルミ	②「ナチュラルミステイク」について		
		ステイク」の情	は監訳者のインタビュー記事掲載		
		報発信。	により、12 月の売り上げが急拡大		
			したため、対応を一時中断する。		
香料研究部会	食品香料の性質と安	_	_	_	_
	全性等に関し偏向の				
	無い科学的な調査研				
	究を行う。食品香料に				
	関する正しい科学的				
	共通理解を産・官・学				

	に普及させる。				
ДОТЬ О ТЫ	→ FA /\\ ±±±₩\₩ →° \\) (AAT) ~ »	,)		
食品領域の動物	実験代替推進プロジェク	ト(AATプロシェク	F)		
全体進捗	<活動目的>	・研究 WG テーマ	・プロジェクトの今後の活動方向性	・3/15 にプロジェクト全体会議	· 国立医薬品食品衛生研
	1) 動物に依存しな	推進による評価	等に関する議論を目的に、コアメ	を開催予定(外部会議室(森	究所(国衛研)、独立行
	い、毒性発現機序に	技術基盤並びに	ンバー会議を開催(1/26)	下)&Web)。	政法人 製品評価技術
	基づいた、ヒトへの	評価戦略構築と	・プロジェクトのアカデミア委員(国		基盤機構 (NITE)、アカ
	予測性のより高い	ケースレポート	衛研平林容子先生、小島肇先生) へ		デミア等の専門家
	評価アプローチを	の作成。	の活動報告会議を開催(2/5)		·関連学会(日本動物実験
	確立し、食品の安全	・情報収集・発信			代替法学会等)
	性および機能性評	(国際ワークシ			・ヨーロッパ、アジア等の
	価の精緻化・効率化	ョップ内容のレ			ILSI 支部
	を進展させること。	ポートによる発			
	2) 動物愛護の世界的	信、シンポジウ			
	潮流の中で食品領	ムの開催)。			
	域の取り組みを加				
	速させること。				
体内暴露予測	食品成分の体内曝露	① 昭和薬科大学	① in silico 動態予測モデル活用のた	2024 年上期: in silico 動態予測	
ワーキンググ	を、動物を用いずに予	山崎研に構築し	めのガイダンス(AAT メンバー	モデル活用のためのガイダンス	
ループ (WG)	測する手法の開発推	た in silico 動態	に共有用)作成を開始した。また、	の作成	
	進と現場実装	予測モデルの実	in silico 動態予測モデルを適用で	2024 年下期: in silico 動態予測	
		装	きる動態試験条件の明確化のた	モデルの論文化検討	
		② 新規腸管吸収	め、既存文献の収集を進めた。		
		予測ツールの適	② in silico 動態予測モデル活用の課		
		用性把握	題と解決アプローチについて協議		
		③ ケースレポー	した。		
		ト対象化合物の	③ 進捗なし。		
		体内曝露予測			

データベース	食品成分の既存毒性	有害性評価支援シ	昨年までに構築した食品成分の毒性	データベースの公開に向け、改	
WG	情報(文献等)を収集、	ステム統合プラッ	試験データベース (176 種) の有用性	めて知財の課題について対応す	
	活用し、反復投与毒性	トフォーム	検証を目的に Read-across の予測結	る(有償文献由来のデータ数の	
	を予測する手法、シス	(HESS) を用いた	果と原著論文を用いて POD やター	把握、データベースの順次登録	
	テムを開発中。独自に	食品成分毒性試験	ゲット臓器の予測の妥当性検証を 6	検討等)。	
	毒性情報を収集する	データベース及び	月までに実施。本検証から得られた		
	ことも検討する。	使用ガイダンスを	知見を HESS の利用ガイドとして活		
		含む毒性予測手法	用できるよう、事例集及びコンセプ		
		のAAT参画メンバ	トシートを作成。12 月の全体会議に		
		ーへの公開	て合わせて 176 種のデータベースの		
			公開をもって本 WG の活動を一旦完		
			了とすることで合意した。データベ		
			ースの HESS への登録や知財の課題		
			について、HESS を管理している独立		
			行政法人 製品評価技術基盤機構		
			(NITE)と相談を実施。		
ケースレポー	NAMs (New Approach	第 1 弾のケースス	ラット肝細胞を用いた文献報告を利	Bayesian BMD(EFSA モデル)	
ኑ WG	Methodologies) を用い	タディは「肝障害」	用し、BMD 法(EPA モデル)にて	を用いた検討を進めると共に、	
	た食品成分の安全性	をテーマとし、ラ	BMDL (95%信頼限界下限値) を推定	BMD 評価手法の有用性確認の	
	評価戦略を具体化さ	ット肝細胞を用い	(in vitro PoD)。ラット短期反復投与	検討を、外部専門家と連携しな	
	せ、体内曝露予測 WG	た試験から in vitro	試験報告の肝障害に対する BMDL か	がら進める。	
	とデータベース WG	PoD を求め、評価	ら曝露濃度予測値を算出(in vivo	BMD 評価手法の検討では、対象	
	の活動と協力し、in	スキームの妥当性	PoD)。BMD 解析法における課題を	成分を食品に限らず、既存化合	
	vitro assay 系を加えた	を検証する。	抽出すると共に、in vitro および in	物にまで広げて実施することで	
	リスク評価戦略を作		vivo PoD を比較することで、設定し	評価実績を積み重ね、評価手法	
	成し、ケースレポート		た評価戦略の妥当性を検証中。	の有用性を確認する。	
	として発信する。		サンプルの平均値に左右され、サン		
			プル数によって推定値が変化する		

			BMD に代え、分布を利用して確率変		
			数を求める「ベイズモデル平均化法」		
			が今後主流になるとの意見を受け、		
			Bayesian BMD(EFSA モデル)を用		
			いた検討を開始。		
企画運営 WG	動物実験代替法にお	評価技術に関する	食品の機能性評価における動物実験		
(国際ワーク	ける各国の技術・規制	情報を収集しプロ	代替法の活用について、専門家の先		
ショップ&シ	動向に関する情報を	ジェクト内へ共有	生による講演会を企画している。第1		
ンポジウム WG	発信することにより、	すると共に、プロ	回目の講演会は、熊本大学の首藤先		
より変更)	食品業界における代	ジェクトの活動内	生による「機能性食品開発に資する		
	替法の開発や取り組	容を学会やワーク	有用植物探索ツールと C エレガンス		
	みの推進を促す。	ショップ等を通じ	健康寿命評価技術」と題し、森下文化		
		て発信する。	センターを主会場とした zoom での		
			ハイブリッド方式で 2024 年 3 月 19		
			日に開催予定。参加者は AAT プロジ		
			ェクト参画企業所属の方。また、食品		
			安全委員会による講演会/勉強会の		
			実現へ向けて、テーマや形式を明確		
			化するためにプロジェクトメンバー		
			に対するアンケートを実施した。結		
			果を集計して本取り組みを具体化し		
			ていく。		
研究会・部会・	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
委員会・分科会					
バイオテクノ	バイオテクノロジー	1. 「植物バイオテ	・期間中に研究会は開催なし(新年度	・「植物バイオテクノロジー調	農林水産省
ロジー研究会	を用いた持続可能な	クノロジー調査	1回目は3月開催予定)	査報告」No. 66 のレビュー、	厚生労働省
	食料の安定供給への	報告(旧「ERA プ	・2023 年 12 月開催高度精製 WS の	発行、配布、送付先の見直し。	内閣府食品安全委員会
	貢献を念頭に、バイオ	ロジェクト調査	開催概要を機関誌「イルシー」	・組換えナタネ論文原稿の最終	環境省
		•	•		•

			Г	Г	
	テクノロジーの重要	報告」) (年4回)	No.158 に投稿するべく、初稿を演	化、投稿。	文部科学省
	性の理解を深め、バイ	2. バイオテクノロ	者に確認いただき、ILSI Japan 事		経済産業省
	オテクノロジー応用	ジー応用微生物	務局編集委員会へ送付。		筑波大学環境系&つくば
	食品・作物・添加物等	を利用して発酵	・ISBR DT パラレルセッション概要		機能植物イノベーション
	の安全性・活用に関す	生産された食品・	の論文が掲載された。		研究センター(T-PIRC)
	る調査研究と情報提	食品添加物等の	・「植物バイオテクノロジー調査報		明治大学農学部
	供を産・学・官連携及	安全性に関する	告」No.66 の発行に向けてスター		国立研究開発法人農業・
	び国際的ネットワー	ワークショップ	ト、原稿が集まった。		食品産業技術総合研究機
	クを通して推進し、科	3. 第 16 回 ISBR			構(農研機構)作物研究部
	学的根拠に基づく国	(International			門
	際的に調和した安全	Society for			横浜国立大学大学院環境
	性評価法や活用法の	Biosafety			情報研究院
	発展に貢献する。	Research) 2023 ~			千葉大学大学院園芸学部
		の安全性評価の			
		専門家の派遣			
		4. 遺伝子組換えナ			
		タネの ERA に関			
		する研究成果の			
		論文発表			
栄養健康研究会					
栄養研究部会	「健康寿命延伸」はグ	「健康長寿延伸」	2023 年からは、活動テーマを「健康	実績は、以下の通り。	
	ローバルな持続可能	のための最新のエ	寿命延伸に向け、各世代で解決すべ	●第3回公開セミナー「健康寿	
	な開発目標 SDGs の	ビデンスを継続し	き課題と対策とは」とし、「世代別の	命延伸に向け、各世代で解決	
	目標3「すべての人に	て発信していく。	健康と栄養」に関する公開セミナー	すべき課題と対策とは:中高	
	健康と福祉を」に合致	●公開セミナー(有	をシリーズ化して開催する。	年期編」を2月16日(金)に	
	することから、「健康	料)を Zoom ミー	進捗は、以下の通り。	開催(Zoom)。	
	寿命延伸」をキーワー	ティングで 1 年	① 部会を開催し、第4回公開セミナ	●参加登録数:95名(一般企業、	
	ドとした活動を継続	に数回開催する。	ー(2024 年 6 月 Zoom 開催)ま	大学、学校、医療機関等の非会	

	する。	●セミナー参加登	でのスケジュールと今後の活動	員および ILSI Japan 会員企	
		録者に対しては、	について検討した(2/29)。	業)	
		オンデマンド配	●第 4 回セミナーの候補日(仮)を	●参加登録者へのオンデマンド	
		信を実施する。	6/19 とし、講師の先生方に打診す	配信開始: 2024 年 2 月 28 日	
			ることにした。	(水)~2024年3月28日(木)	
			●セミナー開催当日の担当 (Zoom ホ	計画は、以下の通り。	
			スト、共有ホスト、画面共有、司会	第4回公開セミナー「健康寿命	
			などの担当)を割り当てた。	延伸に向け、各世代で解決すべ	
			●今後については、4月の部会で改め	き課題と対策とは:老年期編」を	
			て検討することにした。	2024年6月に開催予定 (日程調	
				整中)。	
GR プロジェク	食品・食事の血糖応答	GR法の確立・発表	論文再投稿準備	論文発表	
F	性の簡易評価法(GR	論文発表	GR 法詳細条件の検討	GR 法に関する討論会の開催	
	法)の確立と普及				
茶類研究部会・	茶樹に係わりその成	_	_	_	_
茶情報分科会	分の世界的な多様さ、				
	飲料その他商品に係				
	わり各種茶成分の機				
	能性、研究・開発・商				
	品化等に付き会員相				
	互間の情報交換を深				
	めると共に、外部から				
	も情報を得る。				
CHP (Center for	r Health Promotion)				
Project PAN	超高齢化が進む国内	> ヘルシーエイ	▶ 2023年度「すみだテイクテン教	▶ 論文投稿準備	✔ 石巻専修大学
(Physical Activity and Nutrition)	において、働きざかり	ジングのため	室」委託事業報告書作成	ホームページリニューアル	✓ 鹿児島大学
"身体活動と栄	の人々や高齢者の健	のプログラム の開発・普及	2023 年度「すみだテイクテン		✔ 島根大学
養"プロジェク ト	康維持を支援する、運	► 介護予防教室	教室」の概要とその効果につ		✓ 札幌医科大学

	動と栄養の複合プログラムの開発と実践	の開催は会りには、一人の開発をはいる。 との関係をはいる。 とのでは、一人のでは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	いて すみだテイクテン自主グループ 支援 教室終了後の新規グループの 立ち上げと既存グループへの 支援	✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i ✓ i	東京都健康長寿医療センター研究所国立健康長寿医療センターと関連を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) "途上国栄養改善と栄養教育" プロジェクト		「フィリピン の栄養エクト 2022 (調査 究)」 2024 年パリ栄 養サミッション うトの総括を 実施。	▶ 本年度プロジェクト立案無し	R	ood and Nutrition esearch Institute (FNRI:フィリピン t品栄養研究所
		> ベトナム:「ベ トナムにおけ る野菜の摂取	本年度プロジェクト立案無し	N	ational Institute of futrition (ベトナム栄 を研究所)

「完全は デンカー で に かけ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	▶ 本年度プロジェクト立案無し		National Institute of Nutrition
たビジネスモ デル構築に向 けた展開を計 画。			
ト インドネシ ア:「インドネ シアにおける 健康的な食事 の普及に関す る調査 2022」 ビジネスモデ ル構築、並び	 1回/月のペースで Web 会議を 実施し、ビジネスモデル構築に 向けたポイントについて協議 (1)提供する製品形態 (2)食事摂取推奨量(主要栄養素) (3)健康的な食事の基準 (4)質問票の内容(消費者の購買意 	➤ Web 会議を通じてプロジェクトのフォローを継続	✓ ボゴール農科大学 (現 IPB Univ.)

	I	T	Г		[
		に 2024 年パリ	欲を高める手法、建前の正解で		
		栄養サミット	はなく本質を聞き出す方法		
		に向けプロジ	(5) Take10 Sheet の使用		
		ェクトの総括			
		を実施。			
CHP 全体	日本の産・官・学界に	> SUN Business	➤ SBN 本部とのセミナー開催に向	▶ セミナー開催後の ILSI	✓ SUN Business
	蓄積された栄養学、医	Network	けた打合せを実施(1/31)	Japan の役割具体化を目指	Network Indonesia
	学、公衆衛生、衛生環	Japan (仮称:		す	
	境等の分野における	SBNJ)事務局 機能誘致に向			
	科学的知識および技	けた活動継			
	術を、国内および世界	続。			
	的に共通な課題の解	➤ SDGs 貢献プ			
	決に活用し、SDGs に	ラットフォー			
	基づいた社会貢献を	ムの形成。			
	行う。				
研究会・部会・	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
	活動ビジョン・ゴール アジアの ILSI 各支部			予定・行動計画 次回委員会にて今年度の活動計	関連団体等 アジア各支部
委員会・分科会		10 月 26-27 日開催	<進捗>		
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部	10月 26-27 日開催 予 定 の Asia	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の	次回委員会にて今年度の活動計	
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品	10月26-27日開催 予 定 の Asia Sciences Institutes	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク	10月26-27日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN)	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容 につき原稿作成中。	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共	10月26-27日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN)	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容 につき原稿作成中。 <課題>	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共 有化と ILSI Japan 関	10月26-27日開催 予 定 の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容 につき原稿作成中。 <課題>	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共 有化と ILSI Japan 関	10月26-27日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容 につき原稿作成中。 <課題>	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員 会	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共 有化と ILSI Japan 関	10月26-27日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報 交換会)への参加、 情報交換	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の 原稿は投稿終了。海外演者講演内容 につき原稿作成中。 <課題>	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会・分科会 国際協力委員 会	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共 有化と ILSI Japan 関 係者への成果報告	10月26-27日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報 交換会)への参加、 情報交換	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の原稿は投稿終了。海外演者講演内容につき原稿作成中。 <課題> ・「イルシー」誌への投稿完了	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を	
委員会·分科会 国際協力委員 会	アジアの ILSI 各支部 間の交流による食品 法規動向及びリスク 評価等の情報収集・共 有化と ILSI Japan 関 係者への成果報告	10月 26-27 日開催 予定の Asia Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(アジア地域 ILSI 支部との情報 交換会)への参加、 情報交換 ・フレイル予測モ	<進捗> ・「イルシー」誌投稿:日本講演者の原稿は投稿終了。海外演者講演内容につき原稿作成中。 <課題> ・「イルシー」誌への投稿完了	次回委員会にて今年度の活動計 画を審議予定。4 月中の開催を 予定。	アジア各支部

フィ研究部門 分科会食品摂取によるヒト の代謝状態を最新の コンピュータ技術と 計算科学を活用し、高 速で安価に食の機能 性・安全性を予測する AI システムを構築す る。域拡大 ・機能伝達経路の イジングモデル ・AI 教育し、代謝のモデル化に関する進捗状 別の報告がなされた。また、今後の AI リテラシー教育のなかで実習に使用 予定とされているソフトウエア開発 キットのインストールに関する説明 があった。報告会が 3 月 5 日に開催され でおり、AI 栄養機能プロジェ クト分科会との合同で成果と 総括について発表予定。同研究センター (NICHe: New Industry) 総括について発表予定。なこ本ットのインストールに関する説明 があった。本ットのインストールに関する説明 があった。本北大学大学院農学研究 利						
イエンスおよび Al 技	科会	ワールドデータにつ	・フレイルナレッ	認、課題・スケジュールを確認、更	ディアトロフィ合同報告会	
新を活用し、様々な生 スキル(育成) ・北大阪健康医療 公司モデルWG:論文執筆中。		いて、最新のデータサ	ジグラフ作成	新。		
活習慣と健康との関係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とする AI ジステムを構築する。 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一		イエンスおよび AI 技	・ナレッジグラフ	○和食 WG:和食に着目してコホー		
 係性を解明することで、一人ひとりに適した情報提供を可能とする AI システムを構築する。 AI ディアトロ数千分子種よりなるが表する。 (代謝モデルの領) 1月 22 日に月例の進捗報告会を実施のである。 (代謝・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・		術を活用し、様々な生	スキル(育成)	トデータ解析。		
で、一人ひとりに適し た情報提供を可能と する AI システムを構 築する。		活習慣と健康との関	・北大阪健康医療	○予測モデル WG:論文執筆中。		
大情報提供を可能とする AI システムを構築する。		係性を解明すること	都市 (健都) での	○フレイルナレッジグラフスキル		
##		で、一人ひとりに適し	発信	WG:生成 AI を連動した高度な処		
AI ディアトロ 数千分子種よりなる フィ研究部門 食品摂取によるヒト の代謝状態を最新の コンピュータ技術と 計算科学を活用し、高 速で安価に食の機能 性・安全性を予測する AI システムを構築する。		た情報提供を可能と		理スキルの紹介とトライアル 。		
AI ディアトロ 数千分子種よりなる 介謝モデルの領 1月22日に月例の進捗報告会を実施 会品摂取によるヒト 域拡大 し、代謝のモデル化に関する進捗状 報告会が 3 月 5 日に開催され で表しているソフトウエア開発 で表してもの機能 性・安全性を予測する AI システムを構築する。		する AI システムを構				
フィ研究部門 分科会 食品摂取によるヒト の代謝状態を最新の コンピュータ技術と 計算科学を活用し、高 速で安価に食の機能 性・安全性を予測する AI システムを構築する。 域拡大 イジングモデル ・AI 教育 し、代謝のモデル化に関する進捗状 況の報告がなされた。また、今後の AI リテラシー教育のなかで実習に使用 予定とされているソフトウエア開発 キットのインストールに関する説明 があった。 クト分科会との合同で成果と 総括について発表予定。 Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究 科 情報委員会・編 集部会 ・調査・研究活動と その成果の発表 ・科学情報の普及 ・国内外の関連機関 との交流・連携 1. 活動報告配信 (年 6 回) 2. 機関誌「イルシー」 ー」の発行(年 4 回) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」誌の発刊 ・コ」もの発行 ・子定) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・予定) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・予定) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・ア定) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・ア定) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・フェ) 1. 部会活動報告の配信 (1月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月) 1. 11 月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発 ・ 刊(2 月、5 月、8 月、11 月) 1. 第第学レビュー」誌の発 ・ 刊(2 月、5 月、8 月、11 月)		築する。				
分科会 の代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測するAIシステムを構築する。 ・AI教育 次の報告がなされた。また、今後のAIリテラシー教育のなかで実習に使用予定とされているソフトウエア開発学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測するAIシステムを構築する。 ・AI教育 ・AI教育 予定とされているソフトウエア開発学・総括について発表予定。 総括について発表予定。 (NICHe: New Industry クト分科会との合同で成果と学に表現的で表現を定します。) Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究を表現ます。 本ットのインストールに関する説明があった。 科 情報委員会・編集学会 ・調査・研究活動と表の成果の発表・科学情報の普及・国内外の関連機関との交流・連携 ・1. 活動報告配信 (年6回) 2. 情別を対します。 2. 「イルシー」 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) 1. 部会活動報告の配信 (1月、3月、5月、7月、9月、11月) ・科学情報の普及・国内外の関連機関との交流・連携 ・157号: 発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信 (2/8) 2. 情別をオール配信 (2/8) 2. 情別をオール配信 (2/8) 3. 「栄養学レビュー」誌の発行では、方月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発行では、方月、8月、11月)の表行では、方月、5月、8月、11月)の表示を表現を表現を表現します。 1. 音を経過号のバスワード解除の表現します。 1. 音を経過号のバスワード解除の表現します。 1. 所養学レビュー」 1. 所養・シー・の発行では、方月、8月、11月の表現します。 1. 所養・シー・の発行では、 2. 「イルシー」の発行では、 2. 「イルシー」の発行では、 3. 「栄養学レビュー」 1. 所養・シー・の発行では、 3. 「栄養学レビュー」 1. 所養・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・	AI ディアトロ	数千分子種よりなる	・代謝モデルの領	1月22日に月例の進捗報告会を実施	AI 栄養·機能性研究部会第1期	東北大学未来科学技術共
コンピュータ技術と 計算科学を活用し、高 速で安価に食の機能 性・安全性を予測する AI システムを構築する。 ・調査・研究活動と 集部会 ・ 利学情報の普及 ・ 国内外の関連機関 との交流・連携 ・ 1. 活動報告配信 (年 6 回) 2. 機関誌「イルシー」 ー」の発行(年 4 回) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (年 4 回) (女 ・ 5 年経過号のバスワード解除 ・ 1. 活動発出 に 1. 活動報告 に (1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月) に (2 月、5 月、8 月、11 月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊 (年 4 回) (女 ・ 5 年経過号のバスワード解除 月)	フィ研究部門	食品摂取によるヒト	域拡大	し、代謝のモデル化に関する進捗状	報告会が 3 月 5 日に開催され	同研究センター
計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測するAIシステムを構築する。 キットのインストールに関する説明があった。 総括について発表予定。 Center, NICHe)東北大学大学院農学研究科 集部会 ・調査・研究活動とその成果の発表・科学情報の普及・科学情報の普及との交流・連携との交流・連携 1. 活動報告配信(年6回)2、機関誌「イルシー」の発行(年4回)(女・157号:発行、ホームページ掲載、お知らセメール配信(2/8)3、「栄養学レビュー」誌の発刊 (2月、5月、8月、11月)3、「栄養学レビュー」誌の発刊 (年4回)(女・5年経過号のバスワード解除 円)(2月、5月、8月、11月)	分科会	の代謝状態を最新の	・機能伝達経路の	況の報告がなされた。また、今後の AI	ており、AI 栄養機能プロジェ	(NICHe: New Industry
速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。		コンピュータ技術と	イジングモデル	リテラシー教育のなかで実習に使用	クト分科会との合同で成果と	Creation Hatchery
性・安全性を予測する AI システムを構築する。 があった。 科 情報委員会・編 集部会 ・調査・研究活動と その成果の発表 ・科学情報の普及 ・科学情報の普及 ・国内外の関連機関 との交流・連携 1. 活動報告配信 (年 6 回) 1. 活動報告 ・2023 年 11, 12 月分配信(1 月)。 2. 「イルシー」 ー」の発行(年 ・157 号:発行、ホームページ掲載、 お知らせメール配信(2/8) ・お知らせメール配信(2/8) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ー」誌の発刊 ー」はの発刊 (年 4 回) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (2 月、5 月、8 月、11 月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発 円 (年 4 回) (女 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 予定) 3. 「栄養学レビュー」誌の発 刊 (2 月、5 月、8 月、11 月)		計算科学を活用し、高	・AI 教育	予定とされているソフトウエア開発	総括について発表予定。	Center, NICHe)
AI システムを構築する。		速で安価に食の機能		キットのインストールに関する説明		東北大学大学院農学研究
情報委員会・編集部会 1. 活動報告配信		性・安全性を予測する		があった。		科
情報委員会・編集部会 ・調査・研究活動と その成果の発表 ・科学情報の普及 ・国内外の関連機関 との交流・連携 1. 活動報告配信 (年 6 回) 1. 活動報告配信 ・2023 年 11, 12 月分配信 (1 月)。 2. 「イルシー」 ・157 号:発行、ホームページ掲載、 お知らせメール配信 (2/8) 1. 部会活動報告の配信 (1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月) との交流・連携 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・10 日本・10 日本・11 日本・12		AI システムを構築す				
集部会 その成果の発表 ・科学情報の普及 ・国内外の関連機関 との交流・連携 ・2023 年 11, 12 月分配信(1 月)。 2. 機関誌「イルシー」 ・157 号:発行、ホームページ掲載、 お知らせメール配信(2/8) ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号・編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号・編集中(2024 年 5 月発行 ・158 号・編集中(2024 年 5 月発行 ・10 日、10 日、10 日、10 日、10 日、10 日、10 日、10 日、		る。				
・科学情報の普及 2. 機関誌「イルシー」 2. 「イルシー」 月、11月) ・国内外の関連機関との交流・連携 ・157号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(2/8) (2月、5月、8月、11月) 3. 「栄養学レビュー」誌の発刊ー」誌の発刊を定り ・158号:編集中(2024年5月発行ートで記録を定している。 1月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行ートでは変更的では、1月の発表の発表を定している。 1月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行ートでは、1月) 1月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行ートでは、1月)の発行のよりによります。 1月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行ートでは、1月)の発行の発行のよりによります。 1月、11月)の発行の発行の発行の発行のよりによります。 ・158号:編集中(2024年5月発行ートでは、1月)の発行のよりによります。 1月、11月)の発行の発行の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	情報委員会・編	・調査・研究活動と	1. 活動報告配信	1. 活動報告	1. 部会活動報告の配信	
・国内外の関連機関との交流・連携 ー」の発行(年4回)(女・157号:発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(2/8) 2.機関誌「イルシー」の発行 (2月、5月、8月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行 - 」誌の発刊 (年4回)(女・5年経過号のパスワード解除 月) 1000円 (2月、5月、8月、11月) ・158号:編集中(2024年5月発行 (2月、5月、8月、11月) 1000円 (2月、5月、8月、11月) ・5年経過号のパスワード解除 月) 1000円 (2月、5月、8月、11月)	集部会	その成果の発表	(年6回)	・2023 年 11, 12 月分配信(1 月)。	(1月、3月、5月、7月、9	
との交流・連携 4回) お知らせメール配信(2/8) (2月、5月、8月、11月) 3.「栄養学レビュ ・158号:編集中(2024年5月発行 3.「栄養学レビュー」誌の発 ー」誌の発刊 予定) 刊(2月、5月、8月、11 (年4回)(女 ・5年経過号のパスワード解除 月)		・科学情報の普及	2. 機関誌「イルシ	2.「イルシー」	月、11月)	
3. 「栄養学レビュ ・158 号:編集中(2024 年 5 月発行 3. 「栄養学レビュー」誌の発 ー」誌の発刊 予定) 刊(2 月、5 月、8 月、11 (年 4 回)(女 ・5 年経過号のパスワード解除 月)		・国内外の関連機関	ー」の発行(年	・157 号:発行、ホームページ掲載、	2. 機関誌「イルシー」の発行	
- 」誌の発刊 - 予定) 刊(2月、5月、8月、11 (年4回)(女 ・5年経過号のパスワード解除 月)		との交流・連携	4回)	お知らせメール配信(2/8)	(2月、5月、8月、11月)	
(年 4 回)(女 ・5 年経過号のパスワード解除 月)			3.「栄養学レビュ	・158 号:編集中(2024 年 5 月発行	3.「栄養学レビュー」誌の発	
			ー」誌の発刊	予定)	刊(2月、5月、8月、11	
子栄養大学出版 2018 年発行号 (133~136 号) をパ			(年4回)(女	・5年経過号のパスワード解除	月)	
			子栄養大学出版	2018 年発行号 (133~136 号) をパ		

	部との共同事	スワードフリーで閲覧できるよう	
	業)	に修正。	
	4. 種々出版物発刊	3.「栄養学レビュー」誌	
	のコーディネー	・123 号:編集中(2024 年 2 月発行	
	}	予定のところ Oxford University	
		Press との契約更改遅延につき未	
		発行)	
		・124 号:編集中(2024 年 5 月発行	
		予定)	
		・125 号:編集中(2024 年8月発行	
		予定)	

【事務局からのお知らせ】

理事会

第1回理事会が令和6年2月7日(水)に開催された。

1. 令和6年通常総会審議事項・報告事項

審議事項

- 1) 2023 年事業活動報告及び決算報告書案承認の件 山口事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、続けて俵積田次長が決算の概要を資料に基づき説明した。 山田監事より、2023 年決算に関して監査の結果、決算が妥当であると報告があった。
- 2) 2024 年事業活動報告及び収支予算書案承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画を報告し、同上次長が収支予算の概要と会費値上げ案を資料に基づき説明した。
- 3) ILSI Japan への CHP 統合

審議事項1)は異議なく承認された。

審議事項 2)については、ILSI Japan と CHP の収支を分けて説明すること、会費値上げ案は検討不足との理由で総会に提案することが却下された。

審議事項 3)は却下され、総会決議が必要な案件が発生した場合、迅速に総会を開催できるよう、Web 開催など開催方法の変更案を提案することが決議された。

報告事項

	本部動向
	事務局長から、ILSI 論文の題材として、一番多いのはニュートリションであると説明した。
	本部の 2024 年の総会でのセッション内容や今後の ILSI のターゲットについて説明した。
	2. 決議事項
	改選理事の承認
	事務局長から重任理事、新任理事、退任理事に関して説明があり、満場一致で承認された。改選理事はその場で全員承諾した。
	第2回理事会が令和6年2月25日(日)に開催された。
	改選理事が出席し互選の結果、引続き宮澤理事が理事長に選任され、その場で承諾した。他に副理事長に桑田理事、中江理事、谷口理事、阿部
	理事が選任され、その場で承諾した。理事長代行者を桑田副理事長とすることが決議された。会長職はアカデミア出身の理事長が選任されたの
	で、空席とすることが決議された。
総会	令和6年通常総会が2月20日(火)午前10時より江東区森下文化センター内会議室において開催された。
	正会員総数 50 名のうち総会出席数 15 名、書面表決 30 名であった。
	議長が正会員より1名選任され、以下議事を進めた。
	1. 審議事項
	第1号議案 2023 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。
	第2号議案 2024年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。
	第3号議案 定款変更(総会開催方法の変更)
	質疑はなし。
	2. 報告事項
	本部動向の説明
	事務局長が ILSI グローバルの論文の題材を多い順にまとめた資料について説明した。また 1 月に開催された年次総会のセッションの題名や、ど
	のようなターゲットを目的としているかを説明した。
事務局	